平成 30 年 10 月 20 日
11:00～12:00

ＴＡＣ建築士講座　無料公開 特別セミナー

井澤式学習法を伝授します！

ＴＡＣ渋谷校　井澤 真悟

Ⅰ　合格への道

Ⅱ　町田校ライブ中継クラス・個別 DVD 講座・Web 通信講座

Ⅲ　井澤式学習法はこれだ！

１．まとめノートの活用

２-１．平成 30 年一級建築士本試験問題「施工」の一例

２-２．平成 30 年一級建築士使用教材の一例

３．ブログ「井澤式 建築士試験 比較暗記法」の一例

Ⅳ　その他

資格の学校
TAC

平成 30 年 一級建築士 学科試験 ＴＡＣ渋谷校の合格率

★１月からの**本科生** 66 人中 31 人合格 合格率 **47.0%**

★４月からの**上級生** 22 人中 9 人合格 合格率 **40.9%**

★渋谷校 **合計** 88 人中 40 人合格 合格率 **45.5%**

（受験番号が判明しない方は除きます。）

※**全国**合格率 **18.3%**

ＴＡＣ渋谷校 本試験得点結果を報告してくれた方の結果（53 人中 30 人合格）

本試験「総得点」順

	本試験						
	計	環	法	構	施	合計	合否
	13.6	15.2	22.7	24.3	16.3	92.1	
No.1	14	18	25	29	19	105	合格
No.2	16	17	24	28	19	104	合格
No.3	13	20	24	28	19	104	合格
No.4	18	18	24	26	17	103	合格
No.5	12	18	25	26	20	101	合格
No.6	16	17	25	26	17	101	合格
No.7	15	16	21	29	20	101	合格
No.8	15	18	23	24	20	100	合格
No.9	14	18	24	27	17	100	合格
No.10	15	17	26	26	16	100	合格
No.11	14	15	24	26	20	99	合格
No.12	14	17	23	26	19	99	合格
No.13	16	16	24	26	17	99	合格
No.14	15	13	24	28	18	98	合格
No.15	16	14	24	28	16	98	合格
No.16	12	16	26	27	16	97	合格
No.17	15	16	26	23	17	97	合格
No.18	13	15	25	28	16	97	合格
No.19	12	17	24	26	17	96	合格
No.20	11	17	25	26	17	96	合格
No.21	13	14	23	28	18	96	合格
No.22	14	18	24	24	15	95	合格
No.23	15	16	28	23	13	95	合格
No.24	12	14	25	25	18	94	合格
No.25	16	16	21	25	15	93	合格
No.26	12	14	24	24	19	93	合格
No.27	14	17	24	24	14	93	合格
No.28	14	15	26	22	15	92	合格
No.29	14	17	20	26	15	92	合格
No.30	15	12	23	28	13	91	合格
No.31	10	18	23	26	19	96	不合格
No.32	15	16	22	19	18	90	不合格
No.33	13	14	22	21	20	90	不合格
No.34	15	14	23	23	15	90	不合格
No.35	15	12	24	23	16	90	不合格
No.36	12	15	23	25	14	89	不合格
No.37	14	15	23	25	12	89	不合格
No.38	14	13	21	26	14	88	不合格
No.39	12	15	20	22	18	87	不合格
No.40	14	15	19	23	16	87	不合格
No.41	11	11	24	22	17	85	不合格
No.42	10	16	24	20	15	85	不合格
No.43	16	12	20	21	16	85	不合格
No.44	11	14	22	25	13	85	不合格
No.45	13	11	20	23	18	85	不合格
No.46	11	15	20	20	17	83	不合格
No.47	13	15	23	21	11	83	不合格
No.48	14	15	21	21	11	82	不合格
No.49	14	13	19	18	17	81	不合格
No.50	14	13	20	19	13	79	不合格
No.51	13	16	17	17	14	77	不合格
No.52	12	7	16	28	12	75	不合格
No.53	12	12	14	19	15	72	不合格

本試験「法＋構」順

	法構	合計	合否
	47.0	92.1	
No.1	54	105	合格
No.16	53	97	合格
No.18	53	97	合格
No.2	52	104	合格
No.3	52	104	合格
No.10	52	100	合格
No.14	52	98	合格
No.15	52	98	合格
No.5	51	101	合格
No.6	51	101	合格
No.9	51	100	合格
No.20	51	96	合格
No.21	51	96	合格
No.23	51	95	合格
No.30	51	91	合格
No.4	50	103	合格
No.7	50	101	合格
No.11	50	99	合格
No.13	50	99	合格
No.19	50	96	合格
No.24	50	94	合格
No.12	49	99	合格
No.17	49	97	合格
No.31	49	96	不合格
No.22	48	95	合格
No.26	48	93	合格
No.27	48	93	合格
No.28	48	92	合格
No.36	48	89	不合格
No.37	48	89	不合格
No.8	47	100	合格
No.35	47	90	不合格
No.38	47	88	不合格
No.44	47	85	不合格
No.25	46	93	合格
No.29	46	92	合格
No.34	46	90	不合格
No.41	46	85	不合格
No.42	44	85	不合格
No.47	44	83	不合格
No.52	44	75	不合格
No.33	43	90	不合格
No.45	43	85	不合格
No.39	42	87	不合格
No.40	42	87	不合格
No.48	42	82	不合格
No.32	41	90	不合格
No.43	41	85	不合格
No.46	40	83	不合格
No.50	39	79	不合格
No.49	37	81	不合格
No.51	34	77	不合格
No.53	33	72	不合格

資格の学校 TAC

Ⅰ．合格への道

１．私の講義をすべて聴いて、本試験日までに問題集（過去 10 年分）の９割を正解できるようにすれば、合格できる！

２．結局どれだけ真剣に「今年絶対に合格する！」と覚悟を決めたか、で決まる。

・真剣に考えれば、問題集で一度間違えたら二度と間違えないように、まとめノートを作るとか、法令集の線引きの工夫をするとか、自ずから行動が変わる。

・設計・工事監理は建築士の独占業務ですから、建築士でなければ、あなたは「タダのアシスタント」です。

３．合格できるかどうかは、あなたしだい！

コンテンツは最良なものを提供します。勉強するかどうかはあなたしだい。

４．講義への 100%出席

・Web フォローを含む。（翌水曜日０時から視聴可能）

・５分前着席の厳守。

・講義中の疑問点には？マークやフセンを立て、復習や質問がしやすいようにする。また、疑問点が解決した後すぐに？マークを消さずに「~~？~~」のように履歴を残す。一度疑問に思ったものは再び疑問に思うもの。これも復習しやすさの一つの工夫。

資格の学校 TAC

５．科目ごとの基準点・目標点

★ポイントは、「法規と構造で最低 45 点・目標 50 点を取る」こと！

科目	出題数	科目基準点	合格最低条件		目標	
			得点	得点率	得点	得点率
計画	20	11	14	70%	16	80%
環境	20	11	14	70%	16	80%
法規	30	16	24	80%	26	87%
構造	30	16	21	70%	24	80%
施工	25	13	17	68%	18	72%
合計	125	67	90	72%	100	80%

６．本試験日までに問題集の９割を正解できるようにする。

そのために問題集は**必ず**３回以上実施する。

回　数	目　的	時期等
１回目	出題内容の確認	・講義後すぐ！　遅くとも日曜日中に終わらせる！ ・毎週の講義範囲の問題を、設問肢ごとに、問題と解説を読み物としてじっくり読む。 ・分からないなりに一気に読む！ ・計算問題は、もちろん計算する。 ・受験経験者は、最初から次の「２回目」の要領で実施する。
２回目	解ける問題、解けない問題の選別	・設問肢ごとに×△○を付ける。 ・次回の講義日までにやる！ ・わからないところはしっかり調べる。
３回目以降	解けない問題を解けるようにするための繰り返し	・解けない問題を解けるまで繰り返す。 ・知識を整理するための「まとめノート」を作る。 ・「他科目の日」を使って、６月からの直前演習ゼミまでに３回目を終わらせるのが目標！

資格の学校 TAC

７．６月からの直前演習ゼミまでに、テキストを１回は通して読む。

・問題集で学習した内容が「点」だとすると、点が線に、線が面になる。

・体系、全体像が分かる。

・時期的には科目の講義が終わったときが良い。

８．「構造」の前に、必ず法令集の線引きを終わらせること。

「構造」の前に、計画と環境をできるだけ仕上げておくこと。

・講義の順番は、計画(1/12)→環境(1/26)→構造(2/16)→法規(3/23)→施工(4/27)

・マイページ及びＴＡＣ出版ホームページで確認（下記 URL は 2018 年版）

https://bookstore.tac-school.co.jp/kenchiku2018/

・計画、環境のときは問題集にそれほど時間はかからないが、構造、法規は時間がかかる。

９．建築士試験の特徴は、暗記事項が多い！

・他の資格試験と比べて決して内容は難しくない。ただし、暗記事項が多い。

―――――――――――――――― 暗記のコツ ――――――――――――――――

① 理屈で納得する。分かるまで調べる。

② 分類・比較・関連付けする。

→ ＴＡＣ建築士講師室ブログ「井澤式 建築士試験 比較暗記法」の活用

http://kentikushi-blog.tac-school.co.jp/

③ ビジュアル化する。

④ 語呂合わせで覚える。

⑤ テキストや解説を見たあとに、すぐに頭の中で繰り返す。

⑥ 書いて覚える。

⑦ 定期的に反復練習する。

⑧ 問題集を３回解いたころに、設問肢ごとに覚えていないものにフセンを付け、覚えたら外す。

⑨ まとめノート等を使って、思い出せるようにして忘れる。

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

10．問題集を丸暗記しようとしないこと。

・丸暗記で７回も８回もやってもダメ！

・○×が分かるだけではダメ！

・どこが間違いで、どのように直したら正しくなるかを人に説明できるまで理解すること。

資格の学校 TAC

11. 出来ない問題を出来るようにすることをいつも意識する

（１）肢ごとに理解度を明確にして、出来ない問題を絞り込んでいく学習をする。

（２）解説を読み、テキストで調べても**意味がわからないときは、**

→ ①ネットで調べる

②フセンを立てたり、「？」マークを付けておく。長い間立ち止まらない。

（３）**数値が覚えられないとき。何かと混乱しているときは、**

→ 表にして整理する。語呂合わせで覚える。まとめノートを作る。

→ 直前期に覚えるべきものを早い段階から整理する。

「思い出せるようにして忘れる」

→ あいまいなもの、モヤモヤしたものを正確に覚えるために自分で整理をする努力を決して惜しまないこと。

→ **ＴＡＣ建築士講師室ブログ「井澤式 建築士試験 比較暗記法」「実例暗記法」の活用**

http://kentikushi-blog.tac-school.co.jp/

（４）ミニテストや各種テストで間違えた問題の復習は、出来ない問題を出来るようにするために効率的。ミニテストは、各回講義後、15 設問肢程度、最重要問題をピックアップ。

12. 合格したいのならば、勉強時間を確保すること

・やり始めれば、やる気は出てくる！
やる気が出てからやり始めるのではない！

・土曜日コースは、日曜日の復習が勝負！

・講義後の自習室の活用。

・家では怠けてしまうのであれば、**講義後教室に残ってやる**。ＴＡＣ自習室でやる。会社でやる。ファミレスでやる。覚悟を決めて！

・電車の中も有効活用。座らない！

・勉強時間が確保できないなら、昼休みも勉強する！

・お酒を飲むと眠くなるから、我慢するとか。

・眠くなったら立って声に出しながら勉強するとか。ガムを噛むとか。

・困難を克服して「武勇伝」を作る！　合格体験記を作る！

13. 勉強できない言い訳をしない

・多くの人が仕事が忙しくて勉強できないと言う。確かにそうかもしれないが、それを言い訳にしていたら、いつまで経っても一級建築士は取れない。

・来年はもっと忙しくなるんだから。会社に公言して、仕事を調整して。

資格の学校 TAC

14. 仲間を作ろう！　ともに戦う戦友を作ろう！

15. 資料の整理

講義録、ミニテスト等をＢ５ファイルに整理する。

16. その他

・テキスト・問題集は、科目ごとに初回の１週間前に受付で受け取ってください。

・初回の「計画」だけは教室で配付します。会員証が必要です。

Ⅱ．町田校ライブ中継クラス・個別 DVD 講座・Web 通信講座

１．講義内容

・渋谷校の講義のライブ中継及び収録ですので、講義内容はまったく同じです。

２．質問対応

・Web 質問メールは、通常２、３日で回答。遅くても１週間以内に回答。

３．他社ＤＶＤ講義、Ｗｅｂ講座と比較して

・臨場感が違います。

４．町田校ライブ中継クラスについて

① 渋谷校と比較して

・自宅や職場から近い場所で渋谷校の講義が受けられる。

・駅から近い。坂ない。ＥＶが来るのが遅くない。

・教室が混んでいない。

・教室講義を受けたくなったら渋谷校でも横浜校でも振替出席可。事前連絡不要。

② ＤＶＤ講義、Ｗｅｂ講座と比較して

・自己管理がしやすい。学習リズムを保ちやすい。

・仲間が作りやすい。

・自宅でＷｅｂも見られる。

③ 設計製図について

・設計製図は町田校生講義クラスがあります。

資格の学校 TAC

Ⅲ．井澤式学習法はこれだ！

１．まとめノートの活用

２-１．平成 30 年一級建築士本試験問題「施工」の一例

No. 3（材料管理、品質管理）

3. 防水工事において、アスファルトルーフィングの保管については、雨露や湿気の影響を受けにくい屋内の乾燥した場所に、たて積みとした。

（正）付録２

No. 10（コンクリート工事）

1. 普通ポルトランドセメントを使用したコンクリート（設計基準強度36N/㎟）の調合管理強度については、特記がなく、コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温が７℃であったので、構造体強度補正値を６N/㎟とした。

（正）付録３

2. 普通コンクリートにおける構造体コンクリートの圧縮強度の試験については、コンクリートの打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ、150㎥又はその端数ごとに１回行った。

（正）付録16

No. 12（プレキャスト鉄筋コンクリート工事）

3. プレキャスト部材を現場打ちコンクリートに接合する部分については、現場打ちコンクリート部分の精度に影響されるため、「プレキャスト部材の位置の許容差」を、特記がなかったので、「現場打ちコンクリート部分の位置の許容差」と同じ値とした。

（正）付録５

4. プレキャスト部材の組立精度の検査は、柱・壁の垂直部材と梁・床の水平部材とも、それぞれ±10㎜を判定基準として行った。

（誤）付録５。正しくは±５㎜以下。

No. 17（左官工事、石張り工事及びタイル工事）

1. 型枠に塗装合板を用いたコンクリート壁下地へのモルタル塗りについては、下地とモルタルとの有効な付着性能を得るために、下地に高圧水洗処理を施すとともに、ポリマーセメントペーストを塗布し、乾燥しないうちに下塗りを行った。

（正）付録13

2. ビニル床シートを用いた床仕上げ工事における下地については、床コンクリートの直均し仕上げとするに当たり、コンクリートの仕上りの平坦さの標準値を、特記がなかったので、３ｍにつき７㎜以下とした。

（正）付録６

資格の学校 TAC

No.19（内外装工事）

1. ビニル床シートを用いた床仕上げ工事において、下地が床コンクリート直均し仕上げであったので、ビニル床シートの張付けを、コンクリートの打込みから21日後に行うことを確認した。

（誤）付録13。正しくは28日後。

4. カーテンウォール工事において、躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差については、特記がなかったので、鉛直方向を±10㎜、水平方向を±25㎜とした。

（正）付録５

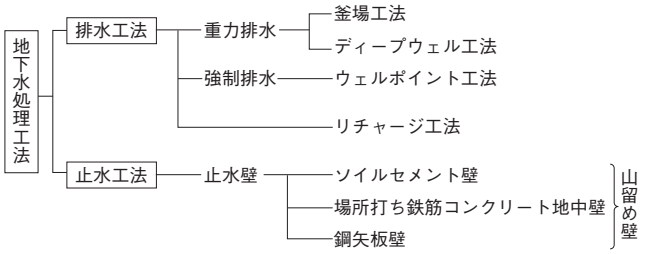
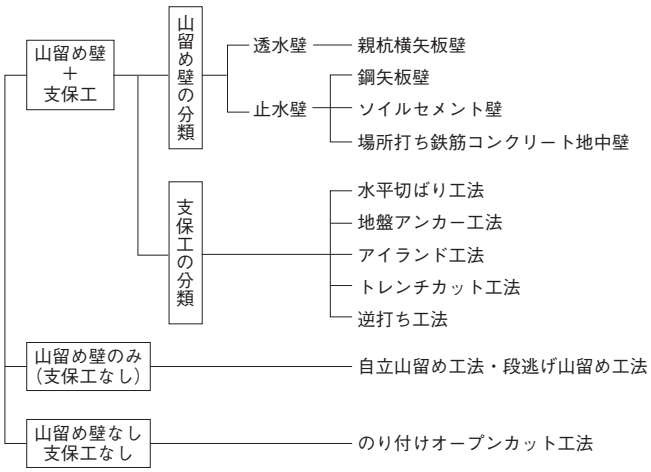
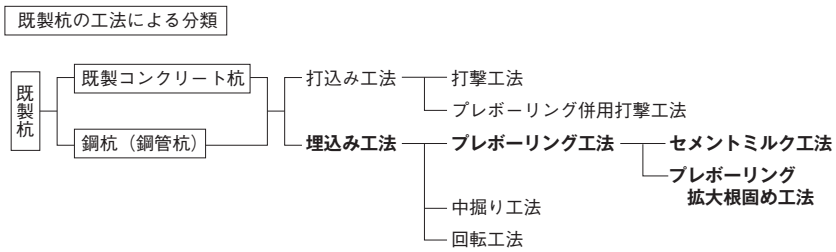
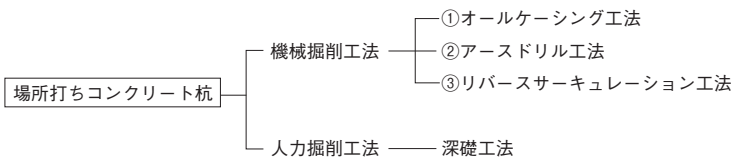
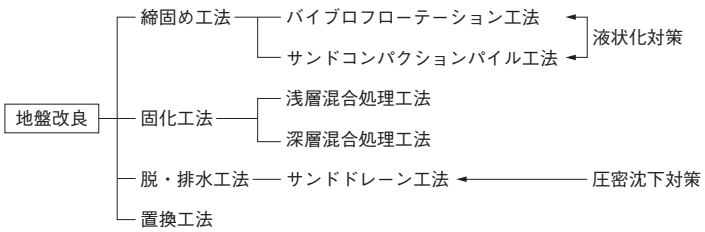
資格の学校 TAC

付録　目次

付録１．土工事・基礎・地業工事の工法
付録２．材料の保管における縦置き・横置き
付録３．気温
付録４．風速
付録５．精度・許容差
付録６．７㎜・９㎜・13㎜・27㎜
付録７．ボルトの孔径
付録８．重ね幅
付録９．化学物質
付録10．エポキシ樹脂の特徴
付録11．ポリマーセメントペースト・モルタルの特徴
付録12．モルタルの硬化時間
付録13．乾燥前・乾燥後・放置期間
付録14．間隔300㎜・450㎜
付録15．似たような用語
付録16．１検査ロットの大きさ
付録17．曲げ内法半径

資格の学校 TAC

付録１．土工事・基礎・地業工事の工法

地下水処理工法の種類 （p 69）	
山留め工法の種類 （p 73）	
既製杭の種類 （p 87）	
場所打ちコンクリート杭の種類 （p 93）	
地盤改良工事の種類 （p 101）	

資格の学校 TAC

付録２．材料の保管における縦置き・横置き

(1) ロール状の材料の保管

・ロール状の材料は、原則、縦置き。

・ロール状で横置きなのは、ロールカーペットだけ（２～３段の俵積み）。
　ロールカーペットは長いので倒れると危険。また、巻き癖も取りやすい。

		テキスト頁	出題
アスファルトルーフィング	縦置き	266	H2703
壁紙	縦置き	333	H2103
ビニル床シート	縦置き	335	H15
ロールカーペット	横置き（２～３段）	338	H2303
（参考）タイルカーペット	横置き（５～６段）	338	H2803

(2) 建具の保管

・建具は、原則、立てかけ（縦置き）。

・横置きは、両面に合板が張られ、剛性が高いフラッシュ戸だけ。

		テキスト頁	出題
木製建具の障子・襖（ふすま）	立てかけ（縦置き）	322	H2203
アルミサッシ	立てかけ（縦置き）	322	２級頻出
板ガラス	立てかけ（縦置き）	315	H2001
木製建具のフラッシュ戸	平積み（横置き）	322	H2203

(3) 板状の材料の積置き高さ

		テキスト頁	出題
プレキャスト部材の積置き高さ	床部材６段まで 柱部材２段まで	201	H2412 H2812
ＡＬＣパネルの積置き高さ	１段の高さ１ｍ以下とし、 ２段まで（総高さ２ｍ以下）	355	H2703
押出成形セメント板の積置き高さ	１ｍ以下	358	H2902 H2203
（参考）補強コンクリートブロックの １日の積上げ高さの限度	1.6m以下（８段以下）	353	H2421

(4) その他

		テキスト頁	出題
ガス圧接・ガス溶接などに用いる溶解アセチレンの容器	縦置き	224	H17
鉄筋	角材により地面から10cm以上離す	109	H10
セメント	床を地面から30cm以上高くした倉庫に保管	290	H17

資格の学校 TAC

付録３．気温

<table>
<tr><th></th><th></th><th>テキスト頁</th><th>出題</th></tr>
<tr><td>せき板の存置期間</td><td>20℃が境界
【基礎・梁側・柱・壁のせき板の存置期間】
<table><tr><th rowspan="2">セメントの種類
平均気温</th><th colspan="3">コンクリート材齢</th></tr><tr><th>早　強</th><th>普　通
混合Ａ種（※1）</th><th>混合Ｂ種（※2）</th></tr><tr><td>20℃ 以上</td><td>２日</td><td>４日</td><td>５日</td></tr><tr><td>20℃ 未満
10℃ 以上</td><td>３日</td><td>６日</td><td>８日</td></tr></table></td><td>142</td><td>H1910</td></tr>
<tr><td>調合管理強度における構造体強度補正値</td><td>気温８℃以上　３Ｎ/㎟
気温８℃未満　６Ｎ/㎟</td><td>163</td><td>H2410</td></tr>
<tr><td>コンクリートの打込み・打重ねの時間</td><td>25℃が境界
<table><tr><th>外気温</th><th>練混ぜから打込み終了までの時間</th><th>打重ね時間間隔</th></tr><tr><td>25℃未満</td><td>120 分以内</td><td>150 分以内</td></tr><tr><td>25℃以上</td><td>90 分以内</td><td>120 分以内</td></tr></table>※高強度コンクリート、高流動コンクリートの「練混ぜから打込み終了までの時間」は、外気温にかかわらず120分以内とする。</td><td>177</td><td>H2611
H2811</td></tr>
<tr><td>流動化コンクリートの荷卸しから打込み終了までの時間</td><td><table><tr><th>外気温</th><th>荷卸しから打込み終了までの時間</th></tr><tr><td>25℃未満</td><td>30 分以内</td></tr><tr><td>25℃以上</td><td>20 分以内</td></tr></table></td><td>189</td><td>H16</td></tr>
<tr><td>コンクリートの養生温度</td><td>５日間は２℃以上に保つ。</td><td>179</td><td>H2911</td></tr>
<tr><td>寒中コンクリート
加熱した練混ぜ水を使用する場合、セメント投入直前のミキサー内の骨材及び水の温度の上限値</td><td>40℃以下</td><td>187</td><td>H2110</td></tr>
<tr><td>寒中コンクリート
荷卸し時の下限値</td><td>５℃以上
（打込み後の十分な水和発熱が見込まれる場合）</td><td>187</td><td>H2611</td></tr>
<tr><td>暑中コンクリート
荷卸し時の上限値</td><td>35℃以下</td><td>188</td><td>H2310</td></tr>
<tr><td>マスコンクリート
荷卸し時の上限値</td><td>35℃以下</td><td>192</td><td>H2110</td></tr>
<tr><td>溶接作業</td><td>－５℃以下は行わない。
－５℃から５℃では溶接線から100㎜の範囲の加熱により可。</td><td>224</td><td>H2913</td></tr>
<tr><td>タイル工事における下地調整モルタルの施工</td><td>３℃以下は行わない。採暖により可。</td><td>301</td><td>H18</td></tr>
<tr><td>接着剤によるタイル後張り工法</td><td>５℃以下は行わない。採暖により可。</td><td>301</td><td>—</td></tr>
<tr><td>塗装工事（さび止め含む）</td><td>５℃以下は行わない。採暖により可。</td><td>350</td><td>H2403
H2803</td></tr>
</table>

資格の学校 TAC

付録４．風速

		テキスト頁	出題
クレーンの吊り上げ作業	風速10m/s以上は中止	64	H2006
プレキャストコンクリート部材の組立て作業	風速10m/s以上は中止	202	H10
ガスシールドアーク溶接作業	風速２m/s以上は中止。 ただし、適切な防風措置を講じれば可。	224	H14

付録５．精度・許容差

<table>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>テキスト頁</th><th>出題</th></tr>
<tr><td>鉄筋の加工寸法の許容差</td><td>あばら筋・帯筋・スパイラル筋</td><td>±５㎜</td><td>111</td><td>H2408</td></tr>
<tr><td colspan="3">構造体コンクリートの位置および断面寸法の許容差
<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th>許容差</th></tr>
<tr><td>位　置</td><td>設計図に示された位置に対する各部材の位置</td><td>±20㎜</td></tr>
<tr><td rowspan="3">構造体・部材の断面寸法</td><td>柱・梁・壁の断面寸法</td><td rowspan="2">－５㎜、＋20㎜</td></tr>
<tr><td>床スラブ・屋根スラブの厚さ</td></tr>
<tr><td>基礎の断面寸法</td><td>－10㎜、＋50㎜</td></tr>
</table></td><td>184</td><td>H2010</td></tr>
<tr><td colspan="2">張り石工事の外壁乾式工法の下地となるコンクリートの位置の許容差（石材取付け用ファスナーの面外調整機能を考慮）</td><td>±10㎜</td><td>306</td><td>H2817</td></tr>
<tr><td colspan="3">プレキャスト部材の精度
<table>
<tr><th></th><th>許容差</th></tr>
<tr><td>仮固定完了後（組立て精度）</td><td>±５㎜以下</td></tr>
<tr><td>工事完了後（位置）</td><td>±20㎜以下</td></tr>
</table>
※プレキャスト部材を現場打ちコンクリートに接合する部分においては､「プレキャスト部材の位置の許容差」と「現場打ちコンクリート部分の位置の許容差」は同じ値（±20㎜以下）である。</td><td>203</td><td>H2020
H2212
H2512
H2712
H2812</td></tr>
<tr><td colspan="2">プレキャスト部材の非耐力壁の長さ、辺の曲がり、対角線長差の許容差</td><td>±５㎜</td><td>200</td><td>H2712</td></tr>
<tr><td colspan="2">ＧＲＣ（ガラス繊維補強セメント）パネルの辺長差、ねじれ・そり、対角線長差の許容差</td><td>±３㎜</td><td>359</td><td>H2920</td></tr>
<tr><td>完全溶込み溶接の突合せ継手の余盛り高さ</td><td>ビード幅によって異なるが、
最も厳しい場合で、０＜ｈ≦３㎜</td><td>220</td><td>H2314</td></tr>
<tr><td rowspan="2">タイル張り下地面の面精度</td><td>モザイクタイル</td><td>２ｍにつき
３㎜以内</td><td rowspan="2">301</td><td rowspan="2">H2517</td></tr>
<tr><td>小口タイル以上</td><td>２ｍにつき
４㎜以内</td></tr>
<tr><td colspan="2">断熱材現場発泡工法における
吹付け硬質ウレタンフォームの吹付け厚さ</td><td>０㎜～＋10㎜
(マイナス側不可)</td><td>344</td><td>H2318</td></tr>
<tr><td rowspan="2">カーテンウォール工事の
躯体付け金物の取付け位置</td><td>鉛直方向</td><td>±10㎜以下</td><td rowspan="2">360</td><td rowspan="2">H2420</td></tr>
<tr><td>水平方向</td><td>±25㎜以下</td></tr>
<tr><td colspan="2">メタルカーテンウォール部材の目地幅の寸法許容差</td><td>±３㎜</td><td>360</td><td>H2220</td></tr>
</table>

資格の学校 TAC

付録６．７㎜・９㎜・13㎜・27㎜

		テキスト頁	出題
モルタルつけ送り	１回の塗り厚６㎜標準。９㎜以下 最大25㎜まで	288	H13 H16
セメントモルタル塗り	１回の塗り厚９㎜以下 最大25㎜まで	288	H2717
（改修）ポリマーセメントモルタル充填工法	１層の塗り厚７㎜程度まで	382	H2223
ビニル床シートの下地となる床コンクリート直均し仕上げの平坦さ	３ｍにつき７㎜以下	292	H2217

	テキスト頁	出題
鉄筋径の差が７㎜以下の場合、手動ガス圧接に限り圧接できる。 （自動ガス圧接、熱間押抜ガス圧接は、鉄筋径の異なる場合は不可）	124	H2308 H2708
ボルト用孔の孔あけ加工 板厚が13㎜以下のときは、せん断孔あけとすることができる。 （高力ボルト用孔は必ずドリルあけ）	215	H2213 H2514 H2713

付録７．ボルトの孔径

		ボルト径ｄ	孔径（孔あけ加工）	テキスト頁	出題
鉄骨工事	高力ボルト	ｄ＜27㎜	ｄ＋２㎜ 以下	216	H2815
		ｄ≧27㎜	ｄ＋３㎜ 以下		構H19
	ボルト	ｄ＜20㎜	ｄ＋１㎜ 以下		構H2330
		ｄ≧20㎜	ｄ＋1.5㎜ 以下		構H2330
	アンカーボルト	－	ｄ＋５㎜ 以下		構H2416
木工事	ボルト	ｄ＜16㎜	ｄ＋１㎜ 以下	248	－
		ｄ≧16㎜	ｄ＋２㎜ 以下		H2915

資格の学校 TAC

付録８．重ね幅

			テキスト頁	出題
ルーフドレンのつば 防水層の張りかけ幅		100㎜以上	263	－
アスファルト防水 アスファルトルーフィングの重ね幅		100㎜以上	272	H2216
改質アスファルトシート防水 シートの重ね幅		100㎜以上	275	H1915
シート防水 （合成高分子系）	加硫ゴム系シートの重ね幅	100㎜以上	276	－
	塩化ビニル樹脂系シートの重ね幅	40㎜以上 （熱融着）	276	H18
ウレタンゴム系塗膜防水	補強布の重ね幅	50㎜以上 （副材）	278	H2316 H2716
	防水材の塗継ぎの重ね幅	100㎜以上 （主材）	278	H2316 H2716
木造　断熱工事はめ込み工法 ポリエチレンフィルムの防湿層の継目の重ね幅		木下地部分で 重ね幅３cm以上	343	H2919

資格の学校
TAC

付録９．化学物質

		テキスト頁	出題
エポキシ樹脂	・一言で言うと、強靭な接着剤。	付録 10参照	付録 10参照
ポリマーセメントペースト（モルタル）	・一言で言うと、防水性、接着性の高いパテ。 ・補修工事、防水改修工事などで多用。	付録 11参照	付録 11参照
ウレタン樹脂	・一言で言うと、伸縮性がある防水材。 （例）・コンクリート型枠用合板の表面処理 ・外壁の部材接合部の目地防水材 ・ウレタンゴム系塗膜防水 ・断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム	130 205 277 342	H1902 H2109 H2116 H2316
シーリング材			
シリコーン系	ガラス回り ※他のシーリング材や塗料が上に付着しない	281	H2416
変成シリコーン系	外壁サッシ回りなど一般的に使用 （ガラス回り以外）	281	H2116 H2621
ポリサルファイド系シーリング材	石材・タイルの目地 ※柔軟性があまりない	282	H2319 H2816
ポリウレタン系シーリング材	外壁の部材接合部の目地防水材 ※防水性に優れる。 ※アスファルトとは相性が悪い	205	H18
接着剤			
変成シリコーン樹脂系 ウレタン樹脂系	接着剤によるタイル後張り工法	298	H2917
酢酸ビニル樹脂系	木工ボンド。耐水性が小。	335	－
エポキシ樹脂系 ウレタン樹脂系	耐水性が大。	335	H2619
合成樹脂塗床			
エポキシ樹脂系	・強靭、耐薬品性が高い ・実験室の塗床	340	H18
ウレタン樹脂系	・弾力性がある	340	－
メタクリル樹脂系 （＝アクリル樹脂系）	・速硬化性、耐薬品性が高い ・厨房の塗床	340	H1918
その他			
ポリエチレン	ポリエチレンフィルム ・防湿層 ・防水工事の絶縁用シート ・被覆アーク溶接棒の梱包 ・さや管ヘッダ工法のさや管　など	269 342	H18

資格の学校 TAC

付録 10．エポキシ樹脂の特徴

・強靭

・耐薬品性が強い

項目	テキスト頁	出題
高湿場所での**ビニル床の接着剤**	335	H2619
エポキシ樹脂系塗床仕上げ	340	H18
亜鉛めっき鋼面へのさび止め下塗りに用いられる **変性エポキシ樹脂プライマー**	347	H2221 H2721
コンクリートの**ひび割れ部**（0.2㎜～1.0㎜）の補修に用いられる **エポキシ樹脂注入工法**	380	H2123 H2323
コンクリート、モルタルの**比較的大きな欠損部**の補修に用いられる **エポキシ樹脂モルタル充填工法**	381 382	－
モルタルの浮き補修に用いられる **アンカーピンニング部分（全面）エポキシ樹脂注入工法**	382	H1920 H2523
タイルの浮き補修に用いられる**注入口付アンカーピンニング** **エポキシ樹脂注入タイル固定工法**	385	H2223
柱の**炭素繊維巻き付け補強**の接着剤	395	－

付録11．ポリマーセメントペースト・モルタルの特徴

・ペーストは（セメント＋水）、モルタルは（セメント＋水＋砂）

・これにポリマー（高分子重合体）を混入させ、**防水性・接着性（付着性）**を向上させたもので、補修工事、防水改修工事などに多用されている。

項目	テキスト頁	出題
プレキャスト部材の0.1㎜以下のひび割れの初期補修用 プレミックスポリマーセメント**ペースト**	201	H2212 H2712
コンクリート下地面への**セメントモルタル塗りの下地処理**のために塗布するポリマーセメント**ペースト** （特に型枠に塗装合板を用いた平滑なコンクリートの場合） （※乾燥前にセメントモルタル塗り（⇔吸水調整剤は乾燥後））	290 291	H18 H2319
コンクリート、モルタルの**軽微なはがれ、比較的浅い欠損部の補修**に用いられるポリマーセメントモルタル充填工法 （※深い欠損部はエポキシ樹脂モルタル充填工法）	381 382	H2123 H2223 H2417
タイル部分張替え工法におけるタイルの張付けに用いられるポリマーセメントモルタル	385	H2023
ウレタンゴム系塗膜防水の改修工事で既存部のふくれ等をカッター等で切除した後、ポリマーセメントモルタルで補修	387	H2523
ルーフドレン回りの防水改修工事において、既存の防水層及び保護層の撤去部分の段差は、ポリマーセメントモルタルにより**1/2程度の勾配**に処理	388	H1925 H2323

資格の学校 TAC

付録12．モルタルの硬化時間

		テキスト頁	出題
セメントモルタル塗りの モルタル練混ぜ量	60分以内に使いきれる量	292	H2217 H2717
改良圧着張り 張付けモルタルの塗付け面積	60分以内に使いきれる量 かつ、２㎡以下	297	H2817
マスク張り 張付けモルタルの塗り置き時間	５分	298	H18

※上表の上２つは、練混ぜから張付けまで時間。一番下は、モルタルをタイルに塗布後、張付けまでの時間（塗り置き時間）。

付録13．乾燥前・乾燥後・放置期間

		テキスト頁	出題
アスファルトプライマー塗布後のアスファルトルーフィングの張付けのタイミング	アスファルトプライマーが乾燥**後**（原則翌日）	271	H2516
コンクリート下地へのセメントモルタル塗りの下塗りのタイミング	下地処理が吸水調整材の場合は乾燥**後**	291	H2917 H2319
	下地処理がポリマーセメントペーストの場合は乾燥**前**	291	H18
セメントモルタル塗りの下塗り後の中塗りのタイミング	下塗り後14日以上放置し、十分にひび割れを発生させてから。	291	H16
タイル張付け後の 外壁タイルの目地詰め	タイル張付け後、24時間以上経過してから。	296	H2117
セメントモルタル塗り下地へのビニル床シート張りのタイミング	施工後14日以上放置し、十分に乾燥させてから。	334	S63

※コンクリート下地は 28 日放置（夏期 21 日）
　モルタル塗り下地は 21 日放置（夏期 14 日）（テキスト p 334・346）

資格の学校 TAC

付録14．間隔 300㎜、450㎜

			テキスト頁	出題
木造床組の根太の間隔	畳床	450㎜程度	255	H1916 H2515
	フローリング張り	300㎜程度		
木造間仕切壁の胴縁の間隔	せっこうラスボード張り	450㎜程度	252	H2515
	せっこうボード張り	300㎜程度		
軽量鉄骨壁下地のスタッドの間隔	せっこうボード２枚張り	450㎜程度	327	H2119
	せっこうボード１枚張り	300㎜程度		

付録15．似たような用語

		テキスト頁	出題
ランマー	・締固め機械	73	H2624
ライナー	・山留めの切梁の継手 ・接触部のすき間に挿入して軸を直線に保つ。	78	H2106
リーマ	・高力ボルト孔の２㎜以下のくい違いの修正	235	H14
ランナー	・軽量鉄骨下地の上下部の水平材	327	H2619
スプライスプレート	・高力ボルト接合の添え板	232	H2624
フィラープレート※1	・高力ボルト接合ではだすき１㎜超の場合に挿入する	235	H2913 H2313

※１：fill は「満たす」

		テキスト頁	出題
グレイジングビード	板ガラスの窓枠への取付け部材。Ｊ字形。	318	H2724
コーナービード	柱・壁の出隅部の補強部材	333	H2024
溶接ビード	溶接において１回のパスによって作られた溶着金属	222	H2314
ショートビード	極端に短いビード。急冷されるため良くない。	222	H2314

※「ビード」の意味は大きく２つ。語源はビーズ（bead）。
① モールディング（廻り縁などの縁材）
② 溶接において１回のパスによって作られた溶着金属

資格の学校 TAC

付録16．１検査ロットの大きさ

<table>
<tr><th></th><th>テキスト頁</th><th>出題</th></tr>
<tr><td>普通コンクリートにおける構造体コンクリートの圧縮強度の検査
・１検査ロットは、「打込み日ごと」「打込み区画ごと」「コンクリート150㎥ごと」である。
・１検査ロットの試験回数は、１回である。
・１検査ロット（＝１回の試験）の供試体は、適切な間隔をあけた「３台の運搬車」から１個ずつ採取し、合計３個の供試体を作製する。</td><td>182</td><td>H2211
H2410
H2510
H2811</td></tr>
<tr><td>高強度コンクリートにおける構造体コンクリートの圧縮強度の検査
・１検査ロットは、「打込み日ごと」「打込み区画ごと」「コンクリート300㎥ごと」である。
・１検査ロットの試験回数は、３回である。
・１検査ロット（＝３回の試験）の供試体は、適切な間隔をあけた「３台の運搬車」から１台につき３個ずつ採取して１回の試験を行い、合計３回の試験、合計９個の供試体を作製する。</td><td>191</td><td>H2103</td></tr>
<tr><td>鉄骨の溶接部と鉄筋のガス圧接部の検査
鉄骨の溶接部と鉄筋のガス圧接部の検査
<table>
<tr><th colspan="2">検査対象</th><th>検査・試験内容</th><th>全数か抜取か</th></tr>
<tr><td rowspan="2">鉄骨の溶接部の受入検査</td><td>外観の検査（表面欠陥及び精度の検査）</td><td>目視検査によりアンダーカット等の有無を検査</td><td>抜取検査（１検査ロットから 10%）</td></tr>
<tr><td>内部欠陥の検査</td><td>超音波探傷試験</td><td>抜取検査（１検査ロットから 30 箇所）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">鉄筋のガス圧接継手の検査</td><td>外観の検査</td><td>目視等により圧接部のふくらみの形状等を検査</td><td>全数検査</td></tr>
<tr><td>内部欠陥の検査</td><td>超音波探傷試験</td><td>抜取検査（１検査ロットから 30 箇所）</td></tr>
</table></td><td>225</td><td>H2208
H2614</td></tr>
<tr><td>タイル後張り工法
引張接着強度試験</td><td>100㎡以下ごとにつき１個以上
かつ全面積で３個以上</td><td>302</td><td>H2517
H2817</td></tr>
<tr><td>あと施工アンカー
引張試験</td><td>１ロットに対し３本とし、
無作為に抽出</td><td>391</td><td>H2222</td></tr>
<tr><td>シーリング工事
２成分形シーリング材の硬化確認</td><td>１組の作業班が１日に行った施工箇所を１ロットとし、ロットごとに別に作成したサンプルで確認</td><td>283</td><td>H2716</td></tr>
</table>

付録17．曲げ内法半径

部位		曲げ内法半径	テキスト頁	出題
鉄骨工事	梁、ブレース端のハンチ等の塑性変形能力が要求される部位の曲げ内法半径	材料の板厚の８倍以上	216	H2713
設備工事	ＣＤ管・ＰＦ管の曲げ内法半径	管内径の６倍以上	375	H2720
耐震改修工事	柱の鋼板巻き立て補強の鋼板のコーナー部の曲げ内法半径	鋼板の板厚の３倍以上	395	H2722

資格の学校 TAC

３．ブログ「井澤式 建築士試験 比較暗記法」の一例

http://kentikushi-blog.tac-school.co.jp/

2016年07月21日

井澤式　建築士試験　比較暗記法　**No.352**（降伏比・幅厚比・細長比）

井澤です

■問題１

降伏比の小さい鋼材を用いた鉄骨部材は、一般に、塑性変形能力が小さい。（一級構造：平成26年No.29）

■問題２

鉄骨構造のラーメン構造において、靭性を高めるために、塑性化が予想される柱又は梁については、幅厚比の大きい部材を用いる。（一級構造：平成25年No.16）

■問題３

有効細長比λが小さい筋かい（λ＝20程度）は、有効細長比λが中程度の筋かい（λ＝80程度）に比べて変形性能が高い。（一級構造：平成22年No.16）

■解答

問題１　誤。

問題２　誤。

問題３　正。

さっそくポイントを確認しましょう。

――――――――ポイント――――――――

鉄骨構造で出てくる次の３つの「比」は、

すべて小さいほど塑性変形能力が高い。

・降伏比

・幅厚比

・細長比

３つの「比」を覚える語呂合わせ

「幸　　福　　は細く長く」

降伏比　幅厚比　細長比

資格の学校 TAC

それでは、それぞれ少しだけ詳しく説明しましょう。

■降伏比

降伏比（降伏強度／引張強度）が小さいほど、降伏してから最大強度（＝引張強度）までの余裕があり、塑性変形能力が大きくなります。

■幅厚比

幅厚比（幅／厚）が小さいほど、薄っぺらくなくなり（ピンと来なかったら絵を描いて！）、局部座屈が生じにくくなり、塑性変形能力が大きくなります。

■細長比

細長比（座屈長さ／断面二次半径）は、文字通り、細長さを表すので、細長比が小さいほど、細長くなくなります。すると、座屈が生じにくくなり、塑性変形能力が大きくなります。（座屈は抵抗力が急激に低減します。）

塑性変形能力についても確認しておきましょう。

――――――――ポイント――――――――

「靭性が高い」＝「粘り強い」＝「塑性変形能力が高い」＝「変形能力が高い」

すべて、同じ意味です。

すべて、降伏後に抵抗力が急激に低減することなく、塑性域でも変形し続ける能力が高い、という意味です。

ついでに次のことも確認しておきましょう。

――――――――ポイント――――――――

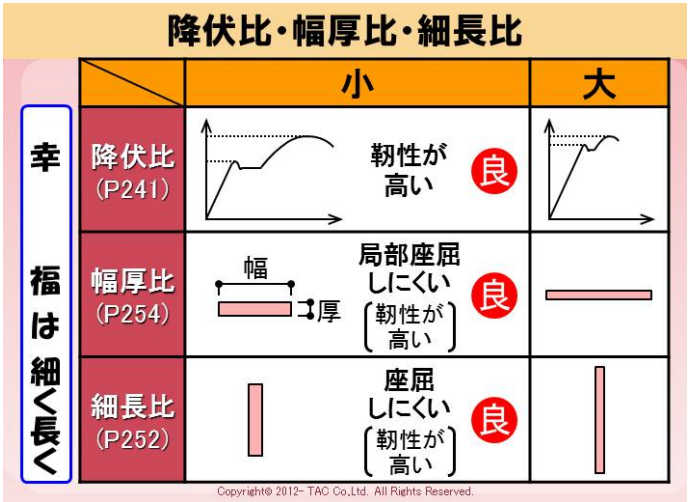
一般に、ＡＢ比と言えば、Ａ／Ｂです。

・幅厚比は、幅／厚

・径厚比は、径／厚（鋼管の場合）

・水セメント比は、水／セメント（質量比）

・セメント水比は、セメント／水（質量比）



資格の学校 TAC

Ⅳ．その他

１．ＴＡＣ無料公開!!　特別セミナーのご案内（予約不要）

①「最新！法改正情報と法令集の活用法」

11 月 18 日（日）11：00～12：00　渋谷校

（他校の日程はホームページ等をご参照下さい）

平成31年本試験の出題対象となる最新の法改正情報と法令集の活用法を解説します。

②「一級上級生ガイダンス」

３月 24 日（日）11：00～12：00　渋谷校

２．ＴＡＣ法令集の線引き見本　大公開！

ＴＡＣ法令集　　11 月中旬出版予定

線引き見本公開　12 月中旬ＵＰ予定

2018 年版はこちら↓

https://bookstore.tac-school.co.jp/kenchiku2018/

３．一級建築士 渋谷校 開講案内

①　力学基礎講義　10 月 27 日(土)

②　法規基礎講義　11 月 24 日(土)

③　学科本科生　　1 月 12 日(土)

④　上級生　　3 月 31 日(日)

⑤　直前演習ゼミ　6 月 15 日(土)

資格の学校 TAC